

## 発刊のあいさつ

浦添市教育委員会教育長 福山 朝秀

浦添市教育委員会は、一九八七年度（昭和六十二年）より「琉球王国評定所文書」の刊行事業を開始し、以後事業を順調に推し進め、昨年度までに十巻を刊行いたしました。琉球王国の近世史ひいては日本史を研究するにあたって大変重要な文書との高い評価を受けながらも、これまで同文書は断片的にしか翻刻出版されませんでした。当教育委員会では、現在確認されている全史料を「琉球王国評定所文書」全十八巻として刊行する予定です。

浦添市は、古琉球時代もともと早く王権が確立した地域です。したがって、古くから沖縄本島の政治・経済・文化の中心地でありました。「うらおそい」の古名で『おもろさうし』などにも登場しております。また、中国や東南アジア諸国との貿易活動によって、琉球の「大交易時代」を担いました。このような歴史を持つ当市は、「国際性ゆたかな文化都市」をめざしており、市の文化事業の一環としての「琉球王国評定所文書」刊行事業を今後も推進してまいります。

今年度刊行の「琉球王国評定所文書」第十一巻には、内務省作成「旧琉球藩評定所書類目録」の通し番号で一五三三三三・一五三四四四・一五三五五五・一五四〇〇号、以上の四つの文書を収録しました。一五三三三三・一五三四四四・一五三五五五号は、東京大学法学部法制史資料室所蔵の文書です。一五四〇〇号は、国立公文書館所蔵の文書です。年代は一八五五年（咸豊五年）から一八五六年（咸豊六年）までの二年間と僅かの間になります。一八五五年には琉仏修好条約

が調印されています。一五三四号・一五三五号文書には、ゲラン提督率いるフランス艦隊が琉球に渡来し、修好条約を結ぶまでの経過が記録されています。これらの史料集が多くの市民をはじめ、研究者の間で活用されることを願っております。

最後に、本事業のために貴重な史料を提供し、また、刊行について御快諾下さいました東京大学法学部法制史資料室ならびに国立公文書館の関係各位、また、史料の筆耕解説にご協力下さいました研究者各位に深く感謝申し上げます、発刊の言葉と致します。

一九九五年（平成七）三月吉日